

傾向にあるもののがん死亡数の増加に罹患者の把握が追いついて行けない実情である。このように苦しい状況の中で実務担当者を支えてきたのは、大阪府立成人病センターを主任研究者とする「地域がん登録研究班」へ協力研究者として参加させて頂き、諸先生方から多くのご指導および励まし、そして研究費による財政的援助を頂いた事によるものである。特に平成 12 年度は、それまで実施することができなかった 5 年生存率計測について、研究班の課題として参加することにより（研究班の大島先生・津熊先生・味木先生のご助言・指導に力を得て）、単年度ながら良好な精度で実施することができた事さらに、その際の住民票照会の手法等がユニークであった事から平成 13 年度地域がん登録全国協議会がん登録実務者研修会において発表させて頂いたこと等、「地域がん登録研究班」へは深く感謝している。

昨年度スタートした「がん予防対策のためのがん罹患・死亡動向の実態把握の研究」班の 15 支援地域の中に \* 印付きで「地域性を配慮しての支援」として入れて頂いたことは何とか標準化の波に乗り遅れることを免れ、九死に一生を得た感である。本州から遠く離れ、130 万人と比較的小さな人口規模で、人口移動も少なく、特有な気候風土を有する沖縄県におけるがん登録は、沖縄県のがん予防・医療水準の向上のみならず、日本におけるがん罹患状況把握においても重要なものであると痛感する。

今後の課題は登録精度の向上であり、現状のままではがん登録の有益性を証明することは極めて困難である。精度向上の方法として、自主的届出勧奨のための説明会や勉強会を開催し普及啓発を図る 出張採録医療機関の見直し 地域がん診療拠点病院との連携を図る 診療情報管理室等の整備されていない医療機関への設置に向けての支援 保健所のがん登録事業に於ける役割の明確化 祖父江班の標準システムに合わせたデータ整備等が上げられる。しかし、課題は多かれどスタッフ・予算の圧倒的不足はどうかならないものか...と、各登録室からも同じつづやきが聞こえてきそうです。希望を持って日々業務に邁進するのみある。

## CIV Vols. I-VIII. インターネット版 の紹介

西野 善一  
宮城県立がんセンター研究所疫学部

世界各地域のがん罹患統計がまとめられた Cancer Incidence in Five Continents (CIV) は 2002 年に第 8 巻が刊行されたが、このほど第 1 巻から第 8 巻までの集計データがインターネット上で得られるようになった。CIV Vols. I-VIII. インターネット版は国際がん研究機関(IARC)の website 中の“Cancer Mondial”( <http://www-dep.iarc.fr/> ) で利用可能である。

インターネット版は original database、updated database および detailed database の 3 つのデータベースから構成されており、このうち original database は既に刊行された CIV 第 1 巻から第 8 巻に記載されている集計データをインターネット上で利用可能としたものである。同一期間における各登録の部位別、あるいは各部位の登録毎の罹患数、罹患率に関する表が得られるのに加えて、第 1 巻から第 8 巻までのデータが同じデータベース上にまとめられていることにより、期間毎の罹患数、罹患率の推移に関する表が容易に作成可能である。また、データベースに基づいた各種グラフの編集もできる。updated database は、これまで刊行された CIV 中の少なくとも 3 巻に連続してデータが掲載されている地域がん登録に対して、IARC が昨年データの提出を依頼することにより作成された更新データである。データが更新の上、各登録の集計期間が可能な限り統一化されている他は original database と同様の内容および機能を持つ。detailed database は、これまでほぼ 5 年を単位として集計されていた各登録のデータを updated database に基づき単年度で提示しているものである。さらに、これらのデータベースでは、現在準備中である CD-ROM 内のソフトを別途使用することにより、いくつかの部位や地域をまとめた形での集計を行うことができるのが特徴である。

インターネット上で公開されることにより、データ入手の利便性が大きく向上したことに加えて、各巻刊行後の集計データが反映された更新データが公開されたことでインターネット版の価値は大きいと考えられる。今後各方面で大いに活用されることを期待したい。